

研究成果及び活動一覧 (2003. 1. 1~12. 31) [五十音順]

- A : 著書、論文、書評など
 B : 学会での口頭発表その他の活動
 C : 講演、論説など
 D : 学術的調査

井川健司

- B : 1 全国大学国語国文学会理事

井上英明

- A : 1 「海外におけるうつほ物語研究の出発」(中野幸一編、『平安文学の風貌』武蔵野書院) pp. 125-145. 3. 25.
 2 「『金の斧 銀の斧』の続編——イソップ寓話のヴァリエーション——」(明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集・第六輯『表現(II)——言葉と形象——小堀桂一郎責任編集) pp. 24-45. 3. 15.
 3 「『伊勢物語』成立私考 第五稿——『大和物語』とのかかわり——」(明星大学研究紀要・日本文化学部第11号) pp. 11-17. 3. 25.
 4 「世界の中の『源氏物語』——海外での読まれ方——」第二十一回公開講座青梅会報第22号 pp. 1-8. 3. 20.
 5 「江戸の歴史と文化——忠臣蔵——その形成と受容——」(東方学会報 No. 84) pp. 21-23. 7. 28.
 6 History and Culture of *Edo : Chūshingura* — Its formation and reception — (Transactions of the International Conference of Eastern Studies, No. XLVIII) 2003. 12. THE TŌHŌ GAKKAI. pp. 138-142. 12.
 7 「源氏物語の国際性」(「別冊国文学」No. 56. 小町谷照彦編「源氏物語を読むための基礎百科」学燈社) pp. 216-218. 11. 10.
 8 「古代物語文学の主人公——伝承の中の真実——」(「平安朝文学研究」早稲田大学、復刊第十二号) pp. 143-146. 12. 6.
- B : 1 (学会コーディネイター) 第48回国際東方学者会議「江戸の文化と歴史——忠臣蔵——その成立と形成——」(於日本教育会館) 5. 16.
 2 (学会司会) 剣持武彦氏「散文詩をめぐって——〈語る〉こと、〈うたう〉こと、〈えがく〉こと」(日本比較文学会東京支部例会、於鶴見大学) 8. 23.
 3 (学会司会) 松岡直美氏「イングロ・カズオ『わたしたちが孤児だったころ』における‘文化的孤児の境遇’」(同上例会於東京大学教養学部) 11. 15.
 4 (学会司会) 緑川真知子氏「源氏物語の会話内会話文の英訳について」全国大学国語国文学会冬期全国大会(於大阪大学吹田キャンパス) 12. 7.
 5 全国大学国語国文学会常任理事として学会設営(年間)。
 6 日本文体論学会常任理事として学会設営(年間)。
 7 東方学会評議員、国際運営委員として国際会議設営(年間)。

- 8 日豪 NZ 教育文化学会会長として学会設営及び研究紀要発行（年間）。
- 9 日本比較文学会東京支部幹事として学会設営（年間）。

- C : 1 「甦える記憶」（月刊「健康」共同通信社刊）7. 20. pp. 10-15.
- 2 「ある晴れた五月に——フランシス・キングとの出会い——」「フランシス・キング研究」会報、p. 2.
 - 3 「岡一男先生——語り継ぎ、言ひ継ぎ行かむ——」（「むらさき」紫式部学会編輯 武蔵野書院）pp. 93-104. 12. 7.
 - 4 （学外講義）「光源氏没落の端緒」第2回——若菜下を中心に——」於パルテノン多摩、8. 10、17、25 の3回。

牛村 圭

- A : 1 （単行著書・監訳）*Beyond the 'Judgment of Civilization': the Intellectual Legacy of the Japanese War Crimes Trials 1946-49* (The International House of Japan, 2003)、336ps, 3. 31.
- 2 （論文）「不条理に抗する言葉——『世紀の遺書』の語るもの——」、明星大学日本文学部編『表現（二）言葉と形象』、pp. 156-178、3. 10.
 - 3 （論文）「永遠に若く、そして美しく」、『明星大学研究紀要（言語文化学科）』第11号、pp. 69-78、3. 25.
 - 4 （論文）「主権とナショナリズムと戦後日本と」、『修親』529号、8. 1.
- B : 1 東京大学より博士（学術）の学位を授与される。5. 29.
- 2 「共同研究・文明から観る二十世紀日本の学際的研究」（サントリー文化財団）主宰。
- C : 1 *The Asahi Shimbun International* 東京本社国際部ラルフ・カッセル記者より *Beyond the 'Judgment of Civilization': the Intellectual Legacy of the Japanese War Crimes Trials 1946-49* (The International House of Japan, 2003) につき取材。以下の記事に掲載。“Book takes Allies to task for claiming the civilization crown” *The Asahi Shimbun International* および *Herald Tribune* 11. 8-9.

岡田恒雄

- A : 1 翻訳：「マイニンゲン公ゲオルク二世：パウル・リンダウ宛ての手紙から—1909年」、世界の演劇博物館 調査・研究・交流プロジェクト〔編〕、『マイニンゲン宮廷劇団と演劇博物館』、pp. 42-48、早稲田大学演劇博物館、2. 28.
- 2 論文：「ドイツ文学の義侠とアウトロー」、小田中章浩〔編〕『ASD (Alternative Study of Drama)』第9号（特集：演劇における任侠とアウトロー）、pp. 45-52、ASD研究会、3. 1.
 - 3 演劇批評：「ザルツブルク 糸操り人形は文楽にあらず——東西演劇共演のジャ

- ン・ジュネ『屏風』、AICT（国際演劇評論家協会）日本センター〔編〕、『シアター・アーツ』第18号（特集：演劇批評の現在）、pp. 103-105、晩成書房、8. 15.
- 4 演劇プログラム記事：「抑えられるか、アルトゥロ・ウイの興隆」、『プレヒト的プレヒト演劇祭』ブックレット vol. 3（『アルトゥロ・ウイが往く、追え』）、p. 6 f. シアター X（カイ）、10. 10.
- 5 Abstract of the Paper Presented : The Chushingura and Yotsuya Kaidan, "Transactions of the International Conference of Eastern Studies"（国際東方学者会議紀要）、No. 48、p. 107 f. 東方学会、12.
- B : 1 学会シンポジウム／パネリスト：「江戸の歴史と文化—忠臣蔵の成立と受容」（『忠臣蔵』と『東海道四谷怪談』、の論題で発表）、第48回国際東方学者会議—東方学会、日本教育会館、5. 16.
- 2 学会シンポジウム／パネリスト：「江戸と能—式学の時代—」（元禄時代の教養としての能、について発表）、世阿弥学会、文京シビックセンター、8. 8.
- C : 1 演劇講座講師：「プレヒトと中国・日本の伝統演劇」、「魯迅・プレヒト・林兆華の演劇講座 第5回」、シアター X（カイ）、コミュニケーションカイ、7. 26.
- D : 1 明星大学 糸あやつり人形講座（劇団結城座『寿獅子』『綱館』『政岡忠義の段』の上演、ワークショップ、鼎談）の企画（コーディネーター）、明星大学日野校シェイクスピアホール、12. 4.

加藤めぐみ

- A : 1 "Patterns of Conquest: Australian Fiction through the Occupation of Japan", 『明星大学研究紀要』（日本文化学部・言語文化学科）第11号、pp. 17-28、3. 25.
- 2 「戦争と花嫁たち：第二次大戦と日豪関係（1）」、『南半球評論』第18号、pp. 72-79. 3. 31.
- 3 "The Scared Who Want to Scare: Fear of a Japanese Invasion in Australian Literature", *Complicities: Connections and Divisions — Perspectives on Literatures and Cultures of the Asia-Pacific Region*, C. Sankaran, L. Leong and R. Patke eds., Bern: Peter Lang, pp. 43-51. 10. 1.
- B : 1 学会発表："Typical Evil?: The Japanese Represented in Australian War Literature", The Tenth Biennial Symposium on Culture and Society in the Asia-Pacific Region, The University of Western Australia, 12. 4.
- 2 オーストラリア・ニュージーランド文学会理事運営、年間
- C : 1 (ラジオ・インタビュー) "Beyond Good and Evil, or Trapped within Them?", Australian Broadcasting Corporation, "Encounter", 12月14日・17日放送。

古田島洋介

- A : 1 編集+解題執筆/岡本さえ [編著]『アジアの比較文化 名著解題』(科学書院)、pp. 46-48『老松堂日本行録』; pp. 63-65『五雑組』; pp. 73-75『和漢三才図会』、3. 20.
- 2 「詩語〈紅雪〉とその形象——白居易の主題による変奏曲」、明星大学青梅校日本文化学部共同研究論集・第六輯『表現 (II) 言葉と形象』([編集責任者] 小堀桂一郎、明星大学日本文化学部) pp. 3-23、3. 20.
- 3 『『米欧回覧実記』を読むために——漢文訓読表現の難しさ』、米欧回覧の会 [編]『岩倉使節団の再発見』(思文閣出版) pp. 134-143、3. 24.
- 4 「訓読文を読む順序——返り点の〈作用領域〉概念の導入」、『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科) 第11号、pp. 49-68、3. 25.
- 5 書評/神田孝夫『比較文学論攷——鷗外・漢詩・西洋化』(明治書院)、「比較文学研究」第81号、pp. 137-140、3. 25.
- B : 1 学会/聴講・評価: 第65回「日本比較文学全国大会」に参加し、機関誌編集委員として研究発表を聴講・評価す。日本大学国際関係学部(静岡県三島市) 6. 15.
- 2 学会/司会: 第6回「東アジア比較文化国際会議」日本支部大会に参加し、二名の研究発表(徐送迎「〈小星〉についての考察——比較文学・文化の視点で」、胡志昂「遊士の系譜——風流との交渉をめぐって」)の司会をつとめる。中央学院大学(千葉県我孫子市) 6. 21.
- C : 1 特別講義「大正天皇と森鷗外」: 宮城学院女子大学大学院日本語日本文学専攻課程(仙台市)人文館 A304 演習室、10. 14.
- 2 学術講演「漢文訓読——国語科教育としての再生」: 千葉大学教育学部国語科特別講演会(千葉市)教育学部2号館 2111 教室、12. 3.
- 3 講演「アジアの教育」[日本語+中国語]: 第28回日華教育研究会、オリンピック記念青少年センター(東京都代々木)、12. 26.
- D : 1 学術調査: 森鷗外「鈴木孫司墓誌銘」(全集未収資料)、妙盛寺(勝浦市佐野) 4. 20.
- 2 学術調査: 大正天皇御製「大中寺観梅」詩碑、大中寺(沼津市中沢田) 5. 10.

小堀桂一郎

- A : 1 (論文)「「正しさ」の喪失」、『正論』2月号、産経新聞社刊、2. 1.
- 2 (論文)「近代歴史畫の生成と敗退」、『明星大学日本文化学部共同研究論集・第6輯・表現 (II) 一言と形象』、明星大学日本文化学部刊、(p. 332~358)
- 3 (解説)「不干齋ハビアン『妙貞問答』」、岡本さえ編『アジアの比較文化』、科学書院、3. 15.
- 4 (論文)「古代人の時間秩序感覚」、『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化

学科) 第11号、(p. 1~9)、3. 25.

- 5 (単行書)『乃木將軍の御生涯とその精神』、(pp. 78)、国書刊行会刊、4. 11.
- 6 (単行書) Tokyo Trials : The Unheard Defense (舊著『東京裁判 日本の弁明』の英語譯)、(pp. 434)、New England History Press, Rockport, Maine. May 2003.
- 7 (書評) 山口重晴著『ティモール島・星空の勇者たち』(新風舎刊)、『靖國』7月号、靖國神社刊、7. 1.
- 8 (単行書)『和歌に見る日本の心』、(pp. vii+571)、明成社刊、7. 14.
- 9 (論文)「靖國神社を御創建の観点から考へる」、『力の意志』9月号、サンラ出版刊、9. 15.
- 10 (論文)「日本人の靖國信仰」、『力の意志』10月号、サンラ出版刊、10. 15.
- 11 (論文)「愚かなり「反核」文学者」(再録)、『恐れずおもねらず』、産経新聞社刊、10. 20.
- 12 (論文)「靖國神社と國民の關係」、『力の意志』11月号、サンラ出版、11. 15.
- 13 (単行書)『日本人と神』(pp. 88)、伊勢神宮崇敬会叢書8、伊勢神宮崇敬会発行、12. 14.
- 14 (論文)「文学・音楽作品から考へる靖國神社」、『力の意志』12月号、サンラ出版、12. 15.

B : 1 (講演)「傳統文化と教育」、日台交流教育会第28回研究会、12. 26.

- C : 1 (散文)「三十五年余泥の中に」、『正論』1月号、産経新聞社刊、1. 1.
- 2 (論説)「建國記念の日を迎へて」、『日本の息吹』2月号、日本会議刊、1. 15.
 - 3 (論説)「建國記念の日にかへたいこと」、産経新聞「正論」欄、2. 11.
 - 4 (講演)「明日の日本外交の取るべき道」、海上自衛隊呉地方総監部 2. 14.
 - 5 (講演)「教育—日本の將來を決めるもの」、旭川神道青年会、2. 22.
 - 6 (短文)「日本のナショナリズム——兆の段階」、『諸君!』3月号、文藝春秋刊、3. 1.
 - 7 (論説)「天皇陛下の靖國神社御親拝を」(再録)、『英靈の遺志をうけつぐ』日本青年協議会刊、3. 15.
 - 8 (短文)「必讀の歴史書三点」、『文藝春秋』4月号、4. 1.
 - 9 (論説)「憂慮される追悼懇報告書の行方」、産経新聞「正論」欄、4. 6.
 - 10 (講演)「時局より見たる東京裁判」、神社本庁中堅神職研修、於伊勢・神宮道場、4. 18.
 - 11 (講演)「和歌に表れた昭和の国難」、岩国水西クラブ、4. 19.
 - 12 (講演)「文學と生活とから見た新曆と舊曆」、明星大学公開講座、5. 17.
 - 13 (解説)「靖國神社遊就館図録」卷末解題、近代出版社刊、5. 25.
 - 14 (討議記録)『「つくる会」が問う日本のビジョン』、扶桑社、5. 30.
 - 15 (講演)「持統天皇の御製について」、伊勢神宮評議員会総会、6. 9.

- 16 (論説)「愛国心を謳ふは次善の策にすぎず」、産経新聞「正論」欄、6. 26.
- 17 (講演)「日本の祭祀と天皇」、皇宮警察本部・警察学校合同、6. 27.
- 18 (論説)「憂慮される追悼懇報告書の行方」(再録←C. 9)、『靖國神社を守ろう!』日本会議刊、7. 10.
- 19 (論説)「百人斬り冤罪訴訟を我事とせよ」、産経新聞「正論」欄、7. 15.
- 20 (談話)「文明の戦ひとしての大東亜戦争」、『祖國と青年』8月号 (p. 21~32)、日本青年協議会刊、8. 1.
- 21 (祭文)「崇敬者大祭祈願詞」、『洗心』142号、乃木神社中央乃木会刊、8. 1.
- 22 (講演)「日本人の生き方」、国民文化研究会学生青年合宿教室、8. 9.
- 23 (論説)「重ねて国立追悼施設の誤りを糾す」、産経新聞「正論」欄、8. 12.
- 24 (論説)「百人斬冤罪訴訟を我事とせよ」(再録←C. 19)、『べるそーな』8月号、8. 15.
- 25 (弔辞)「富士川英郎先生への弔辞」、『比較文学研究』82号、東大比較文学会、9. 12.
- 26 (講演)「邦家の將來は教育にあり」、熱田神宮文化講座、9. 20.
- 27 (論説)「マッカーサー証言の全訳を祝す」、産経新聞「正論」欄、10. 10.
- 28 (対談)「日本語力を復活させよ」vs. 石井勲、『致知』11月号、致知出版社刊、11. 1.
- 29 (論説)「マッカーサー証言の全訳を祝す」(再録←C. 27)、『べるそーな』11月号、11. 15.
- 30 (論説)「ご公務の緩和に典範改正を急げ」、産経新聞「正論」欄、11. 21.

佐佐木茂美

- A : 1 (著書) Voies et “Vergier” (『中世フランス文学論文集』) (選集)、第2巻 (邦文編 (1))、単著、平成15年3月、七月堂 (「学部研究助成費」による出版) 440 pp.
- 2 (論文) 物語の中の庭園・その形象と表現——クレティアン・ド・トロアの表象をめぐって、単著、平成15年3月、明星大学・日本文化学部共同研究論集 (表現 (II)) N: 6 (2003), pp. 121-155.
- B : 1 (口頭発表) 『散文トリスタン』におけるプリアモスの城、平成15年5月、日本フランス語フランス文学会総会 (独協大学)
- 2 (口頭発表) Deux paysages lyriques dans le *Chemin de Long Estude de Christine de Pizan* : Parnasse et Paradis Terrestre (司会、会長 A. レドロー教授)、平成15年7月、Univesität Salzburg, Colloque Internatianal de Christine de Pizan
- C : 1 (講演) ヨーロッパ文化における二本の樹：生命の樹と智恵の樹、平成15年2月、神奈川大学大学院社会科学研究所

佐々木滋

- D : 1 ドイツ表現主義の映画、文学運動の研究一環として訪独、資料収集。03. 8. 24.~03. 9. 10.
- 2 総合科目V「絵画と文学の世界」前期はリルケとヴォルプスヴェーデの画家たちを扱い、とくにリルケの書簡、フォーゲラーの絵画を中心とした。後期は今年もゲーテの「イタリア紀行」からハッケルト、カウフマンらの画家たちの作品とその文学的内容をさぐった。

柴田 雅生

- C : 1 「絵が始まりか？、言葉が始まりか？」、ロックアート展・講演会（栗津潔氏・栗津ケン氏とともに）、於明星大学青梅校、11. 1.

正慶 孝

- A : 1 論文「ブラジルの国旗と社会学者コント」、『琅』15号所収、pp. 2-11、平成15年1月発行。
- 2 論文「経済学とソーシャル言語学」、『明星大学日本文化学部共同研究論集』第六輯「表現II——言葉と形象」所収、pp. 223-257、3. 20.
- 3 論文「現代的教養とは何か」、『言語文化学科紀要』第12号所収、pp. 19-35、3. 25.
- 4 共著『ジャパン・レボリューション——「日本再生」への処方箋』、清流出版、264ページ、4. 10、（共同著作者藤原肇氏）。
- C : 1 (論説)「禍いを転じて福と為せ」、『マチュア・ライフ』2003, vol. 4号所収巻頭言、(財)日本スポーツレジャー協会、p. 11、1. 15.
- 2 (講演)「歴史を横にみる」、東京学芸大学国際教育センター主宰共同研究プロジェクト研究会、於東京学芸大学、6. 21.
- 3 (講演)「日本再構築のビジョンを考える——再建(アナストロフ)か破局(カタストロフ)か」、(社)世界経営協議会(IMAJ)主催、於商工会館、6. 25.

田中 敏

- C : 1 第23回明星大学青梅校公開講座「世界史における白人の犯罪—大東亜戦争に至る白人による植民地支配」11. 15.

田村良平(筆名・村上湛)

- A : 1 論文「新作能〈草枕〉の意義(平成14年10、11月の能・狂言)」『新・能楽ジャーナル』第15号 たちばな出版 1. 1.
- 2 論文「若松健史の生きた時間(平成14年12月、平成15年1月の能・狂言)」『新・能楽ジャーナル』第16号 たちばな出版 3. 1.
- 3 論文「見てもらう姿勢と見る姿勢(2、3月の能・狂言)」『新・能楽ジャーナル』第17号 たちばな出版 5. 1.

- 4 論文「緑蔭の花……大原御幸と定家（4、5月の能・狂言）」『新・能楽ジャーナル』第18号 たちばな出版 7.1.
 - 5 論文「囃子のちから（6、7月の能・狂言）」『新・能楽ジャーナル』第19号 たちばな出版 9.1.
 - 6 論文「国立能楽堂20周年記念公演など（8、9月の能・狂言）」『新・能楽ジャーナル』第20号 たちばな出版 11.1.
 - 7 論文「明暗雙々……6月の能・狂言」『能楽タイムズ』7月号 能楽書林 8.1.
 - 8 論文「非情草木への輓歌……国立劇場7月歌舞伎公演〈卅三間堂棟由来〉批評」『演劇界』9月号 9.1.
 - 9 論文「難波の能と〈妹背山婦女庭訓〉」『国立文楽劇場4月文楽公演パンフレット』4.1.
 - 10 演目解説（あらすじ・鑑賞の手引き）『月刊国立能楽堂』に毎号執筆 1.1～12.1.
- B : 1 学会シンポジウム：パネリスト「江戸の歴史と文化……忠臣蔵の成立と受容」第48回国際東方学者会議 日本教育会館 5.16.
- 2 研究批評誌『新・能楽ジャーナル』編集委員
 - 3 表千家東京都青年部長
- C : 1 鎌倉市立鎌倉文学館主催・文学講座 出講「竹取物語輪講」全3回 鎌倉文学館 3.6、13、20.
- 2 鎌倉市立鎌倉芸術館主催・歴史講座 出講「清経の生涯……平家公達の光と影」鎌倉芸術館 8.28.
 - 3 国立能楽堂主催・能楽鑑賞講座 出講「2月の能・狂言」国立能楽堂 1.29.
 - 4 国立能楽堂主催・能楽鑑賞講座 出講「3月の能・狂言」国立能楽堂 2.26.
 - 5 国立能楽堂主催・能楽鑑賞講座 出講「4月の能・狂言」国立能楽堂 3.26.
 - 6 表千家東京都青年部主催・芸能文化講座の計画・立案「地歌と京舞」（井上八千代出演〈長刀八島〉ほか）銚仙会能楽研修所 5.3.
- D : 1 梅若六郎氏・小田幸子女史と共に能の上演演目に関する再検討作業に携わり、しばしば舞台監修を勤む。（継続中）
- 2 新橋演舞場11月公演「宮本武蔵」に際して、中村梅玉氏（本阿弥光悦）の演技監修をなす。
 - 3 日本文化特論Cにおいて、篤志の学生とともにしばしば能楽堂に足を運び能・狂言を実地鑑賞、現代におけるその実態と意義を探る。

林 雄介

- A : 1 書評：姜昌一著『近代日本の朝鮮侵略と大アジア主義—右翼浪人の行動と思想を中心に』（2002年、ソウル、歴史批評社）、『朝鮮史研究会会報』151号、pp. 21-22、朝鮮史研究会、5.20.

- 2 書評：比較史・比較歴史教育研究会編『帝国主義の時代と現在』（2002年、未来社）、『歴史評論』643号、p.107、11.1.
- B：1 シンポジウム／パネリスト：日韓歴史関連学会共同会議、於ソウル大学、6.21.
 2 シンポジウム／パネリスト：日韓歴史共同研究プロジェクト第6回シンポジウム、於ソウル大学、8.22～8.24.
 3 朝鮮史研究会幹事長（年間）
 4 歴史科学協議会編集委員（年間）
- D：1 近代朝鮮政治史、社会史関係の資料・文献を、大韓民国国立中央図書館および政府記録保存所にて収集、8.15～8.21.

秀村研二

- A：1 「韓国社会とキリスト教」『地理』48巻3号、pp.35-41、古今書院、3.1.
 2 「儒教という伝統—韓国はどこまで『儒教社会』か—」『アジア遊学』50号、pp.132-143、勉誠出版、4.5.
 3 「フィールドとしてのキリスト教」『韓国朝鮮の文化と社会』第2号、pp.29-45、風響社、10.25.
- B：1 「韓国における葬送儀礼の変化—火葬の急増を中心に—」国立民族学博物館共同研究会（韓国社会：グローバル化の中の諸局面）、12.13.
 2 韓国・朝鮮文化研究会理事
 3 「宗教と社会」学会編集委員
 4 国立民族学博物館共同研究員
- C：1 民俗学特殊講義（集中講義）、茨城大学人文学部、2.18～2.20.
 2 「韓国社会と生殖医療」（環日本海医療論）新潟大学医学部看護保健学科、5.19.
 3 「韓国の社会と文化」（現代韓国朝鮮研究入門）早稲田大学、10.30.
 4 「韓国の家族とその変化」（家族—東アジアの事例）日本大学生産工学部、10.20、10.27、11.10.
- D：1 韓国社会におけるキリスト教および教会の人類学的調査、韓国社会の民俗変化の人類学的調査、大韓民国ソウル市、京畿道高陽市、清州市、8.25～9.12.

深澤 清

- A：1 （共著）『アクティブ・コミュニケーション』南雲堂 p.56、4.1.
- B：1 日本ワイルド協会 幹事・書記（通年）野外活動指導者講習会（修善寺ユースホステル9.12～9.15および11.21～23）

D : 1 柳田国男研究所 (9. 12~9. 14)

菱山覚一郎

A : 1 「デューイ教育思想にみる『言葉』概念」、明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集・第六輯『表現 (II) 一言葉と形象』、pp. 258-277、3. 20.

B : 1 研究会発表：「外国からみた日本教育の長所—高度成長期の教育から学ぶべきものは—」、多摩地区教育研究会、11. 16.

D : 1 昭和初期の民間教育運動について：南多摩地区の民間教育運動の現地調査と資料収集、7. 23-7. 25.

2 教職課程の総合演習において、現代の教育問題の探究と「総合的な学習の時間」の進め方の検討。

丸山正義

A : 1 (論文)『楽譜の言葉とその形象化—演奏と楽曲解釈—』、明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集・第六輯『表現 (II) 一言葉と形象』、pp. 376-395、3. 20.

2 (翻訳) アンリ=ルイ・ド・ラ・グランジュ『グスタフ・マーラー 4 友情と賞賛 音楽院卒業 (1867-1879)』、明星大学研究紀要【日本文化学部・言語文化学科】第十一号、pp. 38-55、3. 25.

3 (翻訳) ミッシェル・デボスト『フルート演奏の秘訣』上・下、音楽之友社、4. 10.

三木友里

A : 1 「哈達について」 中国・青海民族研究会 機関誌 8. 15.

B : 1 発表「日本でのチベット研究」 中国・北京、チベット自治区駐北京事務所 8. 12.

2 発表「日中の比較文化研究方法の違いについて」 中国・上海、上海社会科学院 12. 27.

3 発表「日本と中国の大学教育と社会との関係について」 中国・北京 12. 29.

4 発表「日本の中国民族文化研究について」 中国・北京、北京大学、12. 30.

D : 1 チベットの“後蔵”地方のシガツェ、ギャンツェ等の祭事、風俗習慣や言語(方言)、についての調査研究 中国・日喀則(シガツェ)、江孜(ギャンツェ) 1. 1-6.

2 東寺における空海の胎蔵界曼荼羅やタンカとチベット密教との比較研究 京都 6. 26-28.

3 「今の中国の大学での外国人に対する中国語教育」座談会 北京 8. 8.

宗内 敦

- B : 1 『検査間相関関係から見る質問紙性格検査の妥当性の検討』 日本教育心理学会 44 回総会 (日教心 44 回総会発表論文集、410)
 2 教育・文芸同人誌『琅』15号 編集・発行 2003年1月
- C : 1 『心の裏側』—無意識をのぞく—『青梅会報』23号、36-39、明星大学育星会
- D : 1 山梨県教育委員会・教員採用面接委員 2003年8月

矢野浩三郎

- C : 1 講演「戦後の翻訳出版史」グラデュウス・マルチリンガルサービス主催セミナー (札幌)、2. 22.
 2 講演「戦後の誤訳史」ユニカレッジ創立 20 周年特別講座、ユニカレッジ (東京)、8. 22.

山下善明

- A : 1 「言葉、それ自ら表現するもの (続) — “言語文化とは何か” の問いに寄せて」、明星大学青梅校日本文化学部共同研究論集・第六輯『表現 (II) ——言葉と形象』 (責任編集者・小堀桂一郎) p. 179-220. 3. 10.
 2 “Identität als Unverborgenheit — Kant, Nishida, Heidegger”, Ergon Verlag (Würzburg), 179 ps., 4. 3.
 3 「転換期を生きる哲学」(大西光弘、森本聡両氏との鼎談)、清水博 [編]『場と共創』第 17 号、p. 45-69. 金沢工大・場の研究所
- B : 1 自著 (Identität als Unverborgenheit) 解題、本田技研・共創フォーラム、6. 15.
 2 (特) 科学技術新興事業団・社会技術研究グループ研究員
 3 統合学術国際研究所研究員、6月より

山本陽子

- A : 1 (論文)「形象化の宗教的忌避と表現意志との間——現代日本の漫画・アニメーションにおける偶像崇拜禁忌の問題——」、明星大学日本文化学部 [編]『明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集・第六輯 言語と形象』、pp. 359-375、明星大学青梅校舎日本文化学部、3. 20.
 2 (論文)「新出の東北大学図書館本『承安五節絵巻』模本について」、『明星大学研究紀要』[日本文化学部・言語文化学科紀要] 第 11 号、pp. 79-98、明星大学青梅校舎、3. 25.
 3 (論文)「十禅師童形像小考」、『日本宗教文化史研究』第七卷第二号、pp. 42-64、日本宗教文化史学会、11. 20.

B : 1 (学会発表)「日吉十禪師童形像小考」、於早稲田大学美術史学会日本美術史分科会例会、早稲田大学、10. 18.

D : 1 (学術調査)「土地信仰と結び付いた美術(京都)」[「六道の辻」地区における孟蘭盆会と六道絵等の提示状況]、8. 7 / 「桂離宮・修学院離宮周辺の地理と寺社」、9. 30 / 「京都御所の建築と襖絵の主題」11. 7.

2 (学術調査)「東西絵画における金の使われ方とその相互影響(神戸)」8. 8 / 8. 9.

和田正美

A : 1 「地獄の食物——文学的形象としての人肉食」、『表現(II)——言葉と形象』(明星大学日本文化学部共同研究論集・第六輯)、pp. 46-120、3. 20.

2 「ハンチントンの日本論について」(明星大学研究紀要[日本文化学部・言葉文化学科]第十一号) pp. 37-48. 3. 25.

3 『言葉の中の古今東西』(明星大学日本文化学部) 単著 11. 30.